

令和2年6月

## 令和2年度 学校教育目標具現化計画

今年度の学校教育目標を下記のとおり設定いたしました。

- ① 思いをめぐらし ② 自ら考え、判断し  
③ 他者と協働できる ④ たくましい生徒の育成

今年度は、昨年12月頃から世界規模で広がっている（パンデミック）新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日常の家庭生活はもとより、学校における教育活動も休校等に伴う縮小や再編が求められている状況です。

このような状況を鑑み、本年度は学校教育目標を大きく変更しました。（参考：昨年度の学校教育目標「夢や目標をもち、未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」）

今年度の学校目標は、現在の教育環境を取り巻く問題や本校の生徒及び教職員の実態（振り返り）を基に、これから先、「育てていかなければならない4つの力」を掲げたものです。

この1年間、全教育活動を通して「職員・生徒・保護者」と地域の協力を得ながら達成してまいりたいと考えております。

### 令和2年度の「スローガン」を

「夢や目標という種をまき、  
努力という水をやり、  
愛（励まし）という栄養を与え、  
満足という大きな花を咲かせる。」

としました。

## ＜本年度の学校教育目標＞

- ① 思いをめぐらし ② 自ら考え、判断し  
③ 他者と協働できる ④ たくましい生徒の育成

学校目標を達成するためには、それぞれの教師がより具体的な行動計画を立てる必要があるため、先生方に考えていただきました。

- ① 思いをめぐらせることができる生徒を育てるために（教師としてどうするか？）

### ○ 学級担任として

- ・ 生徒・保護者とのコミュニケーションを大切にし、話す機会や聞く機会を増やす。
- ・ 帰りの会の黙想で1日を振り返らせる。
- ・ 生徒の思いを予見するために、表情や問いかけに対して、何かのサインがないかアンテナを張り、言動の変化に注意を払う。
- ・ 道徳教育を充実させる。
- ・ ワークシートや掲示を通して、他の考えや意見を受け止め、認める心を育む。
- ・ 道徳の22項目についての授業を行いながら、実践力を身に付けられるようにしていく。
- ・ 様々な活動の中で、お互いの意見や考えを伝える場を設定する。

- 生徒同士お互いに理解し合い、認め合い、お互いに成長していかせるために相手のことを考えて、行事や日常生活に取り組みませたい。
- 学活や道徳の話し合い活動を通して、それぞれの考えを否定せず大切にし、人によって考え方や感じ方には違いがあることを理解させる。
- 自分や他者の「よいところ」に気付く取り組みを意図して行う。(日直の「きらり発見」 学級通信での紹介)
- 生徒個々や学級集団に対して肯定的な言動を心掛ける。
- 生徒や保護者の気持ちに寄り添う言葉掛けを行う。
- 日々の生活で学級目標を意識した生活
- 生徒の心に寄り添い、じっくりと話を聞く。
- 生徒同士、生徒と教師とのコミュニケーションを大切にする。
- 自分や友人の良いところを褒める取り組みを行う。
- 手本となるようM o mを意識して自分自身が行動する。
- 生徒自身が、学級内での出来事や学校行事等、身近な事象とおして、他者と協働して行動する良さを伝える。
- 生徒一人一人に学級の一員であることの自覚を持たせる学級経営の工夫を図る。
- 生徒や保護者の心情を理解するように努め、言葉をかける。
- 道徳教育の充実。朝読書の充実（良書のすすめ）
- 「違い」について、「察する」ことについて話をする。
- 教科や道徳の時間・短学活において、自分たちの状況を振り

返る時間を設ける。

- ・ 相談しやすい雰囲気づくりに努め、生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にする。
- ・ 「議論する」道徳の授業を行う。
- ・ 学級で思いがめぐらされていない場面を取り上げ、短学活や学活で取り上げる。
- ・ 「も」を意識させた言動をさせる。①自分も友達も大切にす  
る。②部活動も学習もがんばる ③どの場面でもがんばる。
- ・ 本人の特性や興味を把握し、それらに関連する進路、職業を  
調べる機会を設定する。
- ・ 夏休み三者面談を実施し進路実現に向けて計画を立てる。
- ・ 日常の言動からいじめ問題を見逃さない。また、誠意を持っ  
て対応する。

## ○ 教科担任として

- ・ 個に合わせ、できることや努力の姿勢を認め、ほめてあげる。
- ・ 互いに教え合い、協力し合って運動する。
- ・ 教科への興味・関心を深めるために、日常生活との関りを実  
感させられる教材や資料を提示する。
- ・ 生徒の様子をよく観察して個に応じた指導を丁寧にする。
- ・ 生徒同士の失敗を笑わない温かい教室の雰囲気をつくる。
- ・ 自信が付くような声掛け

- 創作した作品を発表し、相互理解を深める。
- 授業の中で、習ったことを使って、いろいろな解決方法をあ  
ることを扱う。
- 理解が遅い生徒に対してもペアワークやグループワークを通  
して、お互いに教え合うことが大切であることを伝えていく。
- ペアやグループでの活動を通して、それぞれの考え方・意見  
の相違を理解させる。
- 文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結  
び付けたり、社会や人間、自然などについて自分の意見をもった  
りする学習活動の充実を図る。
- スモールティーチャーを機能させる。
- ワークシートの内容が充実しているものを掲示し紹介する。
- 7月に、平和学習を行い、「折り鶴」の練習をする。
- 作詞者、作曲者の「思い」や「生き方」を紹介する。
- 教科を好きになってくれるような資料の提示
- 全員が「分かった」「できた」と感じられる場面をつくる。
- 生徒の努力や取り組む姿勢を評価し、ほめる。
- 教材を通して、社会情勢や異文化に興味をもたせる。
- 課題解決学習をとおして、グループ学習やペア学習の場面で  
他者の考えを受け入れ、解決方法を主体的に見付け出す授業の  
展開を図り、また学び合う中で他者を敬う機会を設ける。
- 製作実習の際、習熟度に応じたグループ分けを行い、班別・  
個別の支援に努める。

- 教材を通して、平和・絆・ボランティア精神について理解させる。
- 相互理解（自己理解，他者理解）に努める。
- ワークシート等の生徒作品の良い物は紹介する。
- 個性を認め、良いところやできることを褒めて伸ばせるように声掛けをする
- 自分や自分たちの状況を，学習教材と関連付けて考えたり書いたりする時間を設ける。
- 協働学習を通して，立場や考えの違いについて考えさせる。
- 戦時中の上野動物園についての学習を通して，殺された動物の命と飼育員の立場や気持ちを授業で考えさせる。
- 高校生で「社会科」を学習しないことを見越して，「判断」できる生徒の育成を目指す。
- 時事問題や生徒にとっての身近な話題をテーマにした会話活動の場面設定や英作文作成，クイック Q&A を行う機会を設定し，実践力を養う。
- より発展的な力を身に付けさせるための明確な目標としてそれぞれの力に適する英検の受験をサポートする。
- 1時間の授業で，達成感や成就感をもたせることができるような課題設定をする。また，授業の最後が「分かった」，「できた」で終わることのできるような授業の展開を行う。
- できるようになったことを称賛したり，お互いに声掛けができたりするような雰囲気をつくる。

## ② 自ら考え、判断できるような生徒を育てるために（教師として どうするか？）

### ○ 学級担任として

- ・ 行事や学校生活の中で一人一人に役割を持たせ、最後まで責任を持ち取り組ませる。
- ・ ゴミ拾いやトイレのスリッパ揃えなど身近な部分から意識させていく。
- ・ 中学校生活で、まず、毎日の学習習慣と規則正しい生活習慣が定着を促す。
- ・ 生徒の考えや意見を尊重し、適切な助言をする。
- ・ 学級でうまく機能していない部分について、専門部をもとに行うのか、気付いた人がするのかなどを考えながら解決していけるように促す。
- ・ 様々な活動で、自分自身で考え、判断できる場面を設定する。
- ・ 周りの状況を確認させ、今何をすべきなのかをよく考えさせて、日常生活を送らせたい。
- ・ 専門部活動等を通して、自分の係だけでなく、他の人の役割が十分に果たしているか気付かせることにより、どうすれば良いか考えさせる。
- ・ 生活の記録に書く題材を与え（お題 50 選）、自分の考えや意見を書くような活動をする。
- ・ 学級運営委員会を設定して学級の問題を自分たちで洗い出し、学級会で話し合いによる解決を定着させる。

- ・ 進路情報を提供する（学校見学等も含む）。
- ・ 生活力を身に付け、社会的自立をさせるため、生徒一人一人の到達目標を視覚的に示す。
- ・ 一人一役の係活動の徹底
- ・ 学級会長，副会長のリーダー形成
- ・ 生徒一人一人に役割を与え，自覚と責任をもって取り組ませることで，責任感や達成感を育む。
- ・ 生徒の考えや意見を尊重し，適切な助言をする。
- ・ 節目ごとに目標を立てさせ，実践後に振り返りの機会をもつ。
- ・ キャリアパスポートを用いて，生徒自身が学級内での出来事や学校行事・地域行事等，身近な事象の中で自ら考え，行動する機会をつくる。
- ・ 生徒の行動を適切に評価し，自己肯定感を高める。
- ・ すべての生徒が学校行事に参画し，行事への達成感を味わえるよう支援する。
- ・ 進路指導の充実。設営・掲示物作成をする。
- ・ 手順を考えさせ（時には教え），試行錯誤できる活動（個人，グループ等）を行う場を設定する。
- ・ 道徳や教科において、具体的な事例をあげて、自分の行動を考え、実践する方法を考えさせる。
- ・ 帰りの会で1日の生活を振り返り，良かった点や改善すべき点を発表させる
- ・ 生徒一人一人に，毎日可能な責任ある仕事を任せる。



- ・ 登場人物の行動を通して、「考えさせる」道徳の授業を行う。
- ・ 学校行事の取り組みを通して、新しいリーダーを育成する。
- ・ 読書や道徳の授業などを通して、自分の将来を実現したり、探したりするなどして、今の自分の姿を振り返り、自分の将来についてどうすべきか判断し、行動できる生徒の育成をする。
- ・ 自信を持って挑戦する力を養うために、それぞれの能力を引き出せるような役割設定の工夫をし、自己肯定感を高めさせる。
- ・ 日直の仕事に責任を持ち取組ませる。
- ・ 学級内の一人一役に責任を持ち取組ませる。

## ○ 教科担任として

- ・ 制作の失敗や間違いを、生かすことができる指導、助言をしていく。
- ・ 自らの健康・安全について考えられるようにする。
- ・ 理科実験において、目的を明確にもたせ、達成の意義を実感させられる指導を心掛ける。
- ・ 自分のことや他者のことを英語で表現する活動を授業の中に取り入れる。
- ・ 英語宅習の内容の充実を図る。
- ・ 教科の目標を設定し、その達成に向けての家庭学習の方法を指導する。
- ・ 課題を解決するときに、自分で解決・判断できるだけの基礎的な知識を身に付けさせる。

- しっかりと説明や話を聞かせ、それをもとに応用問題に取り  
組ませることで、「できる喜び」を感じさせたい。
- 課題を設定し、その解決に向けてどうすれば良いか、筋道を立  
てて考えることができるように指導する。
- 伝えたい内容や自分の考えを根拠を明確にして書いたり話し  
たりするような学習活動の充実を図る。
- 個々の思考場面⇔共有場面を設定する
- 演奏会情報を掲示する。
- 個々がしっかりと考え、問題解決にあたる授業の展開
- ・基礎基本事項の定着を図り、自分のことを英語で表現する力  
を身に付けさせる。
- 宅習の内容を充実させる。
- 生徒の主体的な取り組みをほめる。
- 課題解決学習をとおして、グループ学習やペア学習の場面で  
他者の考えを受け入れ、解決方法を主体的に見付け出す授業の  
展開を図る。
- 身の回りの製品や物には、どのような技術が詰まっているか、  
製品の裏側に秘められた思いや工夫を知らせ、ものづくりを行  
う際に、どのようなことに注意して行えばよいのかを考えさせ  
る。
- 語彙力アップ、基礎的事項の徹底を図る。
- 辞書指導、音読指導、表現方法の工夫を行う。
- うまく出来たときには称賛する。

- ・ まず自分の考えをノートに記録し、それに基づいて話し合う体制を作る。
- ・ 他人の意見やアドバイスを素直に受け入れ、生かすことができるよう助言していく。
- ・ 必ず自分の考えをまとめさせた後に、協働学習を行う。
- ・ 戦時中の上野動物園と環境問題についての学習を通して、「自分だったら、どうするか」を考えさせる。
- ・ 選挙で誰に何を基準に投票するのかを考えられるように指導する。
- ・ コミュニケーションツールの一つとしての英語の表現する力を身に付けさせるために、場面設定を明確にした言語活動を行い、時と場に応じた対応ができる実践力を養う。
- ・ 自ら学習する意欲を高めるために、生徒の疑問の声を大切に、生徒から解答を導き出すような声かけやアドバイスを行う。
- ・ 自分の体力について知り、自分に合った体力づくり計画を立て、実践させる。
- ・ 安全面について、常に周りに注意を払うように声掛けする。

### ③ 他者と協働できる生徒を育てるために（教師としてどうするか？）

#### ○ 学級担任として

- ・ 道徳の授業の充実。

- 学級の様々な仲間と活動する場面をできるだけ多く設定し、互いを認めあえるようにする。
- 総合や学活で話し合いを行う際は、必ず役割を持たせる。
- 生徒同士のコミュニケーションの機会を増やし、お互いの理解や信頼関係を深められるようにする。
- 級友が困っていたら、「どうしたの？」と声を掛け合えるような雰囲気作りに努め、ふわふわ言葉がいきかうように自分自身が人権に配慮した言葉かけを率先とする。
- 自分にとって難しいことや、時間・体力的に厳しいことについて、クラスメイトに「手伝って」と言いやすい環境、お互い様で「いいよ」と言える学級を作っていく。
- 係活動を通して、自分の役割を担うことと、協力して取り組ませる。
- 行事などを有効的に使いながら、相手のことを考えて、思いやりを持ってお互いに接することができるようにする。
- 学校行事などを通して、自分一人では実現できないことも、他者と協力する中で、実現することができることを実感させる。
- 行事や専門部活動を通してリーダーはもちろんのこと、それを支えるフォロワーが育つような手立てを行う。
- 学級の中でのプラスの行いを評価（ほめる）する機会をつくる。
- 学級全体で、目標をもって行事や係の活動に取り組ませる。
- 自分の係活動を、責任をもって取り組ませるように、声かけ

を行う。また、継続的に活動できるように掲示物等を工夫する。

- 生徒と共に実施する清掃活動
- 道德教育の充実。他者との「違い」を受け入れ、認め合う心を育む。
- 学級全体で協力する雰囲気、失敗をみんなでフォローする雰囲気をつくる。
- 生徒自身が、学級内での出来事や学校行事等、身近な事象をとおして振り返り、自ら行動する機会を設け、他者と協働して行動する素晴らしさを伝える。
- 生徒一人一人に役割を与え、学級の一員であることの自覚と責任感を持たせる。
- 責任をもって自己の係活動に取り組めるように、声掛けをする。
- 協力することの大切さを体験できるような活動を取り入れる。
- 専門部の活動の目的や役割を常に意識させて、話し合いや実践活動(行事等)を行う。
- 自分の意見を伝えるための手段(ソーシャルスキルトレーニングなど)を実践する。
- 学級組織をフル活用した学級経営を行う。
- 清掃時、各担当場所を複数またはチームで取り組ませる。
- 「も」の学級目標を意識させて、級友と一緒に夢を実現できるように、クラスの雰囲気の大切を理解させ、過ごしやすい学級の実現を目指す。

- ・ スモールステップで個に応じた目標を設定し、できた実感を持たせ、自己肯定感につなげる。
- ・ 生徒同士が教え合い、学び合う場を設定する。
- ・ 自分の仕事に責任を持つとともに、周りに「困っている」と言える雰囲気づくりに努める。また、困っている生徒に声掛けができる雰囲気づくりに努める。

## ○ 教科担任として

- ・ 実習の中で、教師主導ではなく、生徒同士お互いに助け合い作品をつくらせる。
- ・ 得意分野を他の生徒に積極的に教えられるようにする。
- ・ グループの実験で、グループ内での役割分担だけでなく、担当者どうしの学び合い活動も通して、活性化させる。
- ・ 分からない生徒を分かる生徒が先生役になって学習を助ける授業スタイルを作る。
- ・ 文法や古典などの難易度の高い問題を相互に教え合う時間を設ける。
- ・ 数学的な活動の中で、お互いの知恵を出し合って解決させる場面を設定し、取り組ませる。
- ・ 授業の中で、ペアワークやグループワークを通して、お互いに教え合う機会を増やしたい。
- ・ ペアやグループでの助け合い学習の中で、役割を分担し、課題を解決する時間を設定する。

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現化に向けた授業改善の充実を図る。
- ・ 班で協力して実験・観察に取り組ませる。
- ・ 互いの意見を共有する場を設定する。
- ・ 他の意見を認め合える発表の場を設定する。
- ・ 合唱コンクールや卒業合唱の取組を，キャリアパスポートにも記入させ，目的意識をもたせる。合唱コンクールは生徒会文化部を，卒業合唱は実行委員会（3年）を中心に活動させる。
- ・ 4人一単位とするグループ学習による助け合い学習の実施
- ・ ペアやグループでの学び合い活動を積極的に取り入れる。
- ・ スチューデントティーチャーを設定し，生徒同士で学習し合う場面を設ける。
- ・ 課題解決学習をとおして，グループ学習やペア学習の場面で他者の考えを受け入れ，解決方法を主体的に見つけ出す授業の展開を図り，また学び合う中で他者を敬う機会を設ける。
- ・ 体験的・実践的活動を多く取入れた学習指導法の工夫に努める。
  - ① 安全で学習しやすい環境づくり
  - ② 工具・工作機械等の点検整備
  - ③ 教材教具の研究とグループ活動の工夫
- ・ グループ活動を取り入れた授業の展開を行う。
- ・ 相互に教え合う授業の展開を行う。称賛も忘れない。
- ・ 話し合い活動の機会を増やす。

- ・ 音読(古典や詩)や表現学習において、グループ活動を行う。
- ・ ペア活動やグループ活動を通して、教え合い、高め合える関係づくりに取り組む。
- ・ 教科授業だけの班編制を行い、リーダーを中心とした協働学習を行う。
- ・ 宇宙船地球号の考え方や活動について、授業で考えさせる。
- ・ 学習目標を達成できるようにするために、班活動の充実(教え合い、話し合いなど)、まとめの発表など協働学習に取り組む。
- ・ 言語活動の中で、他者の意見を認めながら、褒め合う声掛けやあいづちを大切に活動させる。
- ・ グループ活動を通して、教え合う雰囲気づくりに努める。また、チームの中での自己の役割を考え、果たさせる。

#### ④ たくましく生きる生徒を育てるために(教師としてどうするか?)

##### ○ 学級担任として

- ・ 何事にもチャレンジさせ、問題が起きた時には、生徒同士で考え行動できるように、見守っていく。
- ・ 時間やルール・マナーを確実に守らせる。
- ・ 失敗を恐れない。そのためには、失敗してもフォローできる関係や雰囲気をつくる。
- ・ 粘り強く学習や行事、係活動にとりくめるように見守り、必要に応じてアドバイスし、自分自身で解決する能力を育む。



- ・ 自分の将来の夢を早めに見つけられる活動を通し、その実現に向かって継続的な努力をする力を養う。
- ・ 当たり前のことを、当たり前に行えるように指導する。
- ・ 厳しいだけでなく、優しさも使い分けながら生徒に指導して、最終的に反省・これからしっかりしようとする気持ちを高めたい。
- ・ 夢や目標を設定することで、その実現に向けて、困難から逃げずに、努力し続ける態度を養う。
- ・ キャリアパスポートを活用し、社会人、地域人、職業人としての見通しをもたせる。
- ・ 夢・目標を持たせ、実現に向けて行動する力をつける。
- ・ 時間・提出物・ルールを守らせる。
- ・ 社会に出て通用するか否かの投げかけを随時行う。
- ・ 自分のことは自分でできるように、手立てを講じ、継続した声かけを行う。
- ・ 生活単元の内容充実を図る。
- ・ 自分の将来のことを真剣に考える進路学習
- ・ 様々なことにチャレンジすることの大切さを教える。
- ・ 「気づき 考え 実行する」生徒の育成に努める。
- ・ 自分のことは自分でできるように声掛けを行う。
- ・ 問題や課題が見つかった場合、生徒自ら方法を考えさせ、解決を図れる支援を行う。
- ・ 基本的な生活習慣の規律の確立に努める。

① 一分前着席・黙想の徹底

## ② 提出期限の厳守

- ・ 苦手なものにチャレンジさせる。チャレンジし続けることの大切さを教える。
- ・ 夢や目標をもたせる。もたせるような活動，講話を行う。
- ・ 学級内のトラブルにおいて、生徒同士の話し合いを重んじ、解決法を探らせる。
- ・ 道徳の時間の充実を図る。
- ・ 苦手なことにもチャレンジできるように前向きな声かけ，見通しを立たせる。
- ・ 今年度初導入のキャリアパスポートを積極的に活用する。
- ・ 新聞に掲載のたくましく生きている人を取り上げ，短学活や学活で紹介する。
- ・ 生活の記録に丁寧なコメントを返し，生徒・保護者との信頼関係を構築し，更に深められるように些細な事でも即対応する。その上で，励ましながら本人に強さを求める。
- ・ あいさつの徹底や提出物の期限を守ること等，社会で必要な力を身につけさせることを徹底する。
- ・ 掃除や日直の仕事など最後まで丁寧に取組ませる。

## ○ 教科担任として

- ・ 学校で学んだことが，家庭での実践につながるよう，授業の工夫をする。
- ・ 苦手分野にも手を抜かずに取り組めるようさせる。

- 理科実験の取り組みで失敗しても、その原因を分析して、経験として意味をもたせる。
- 間違っただけの問題をそのままにせず、宅習を通して繰り返す解く手立てをとる。
- 小テストを繰り返しし、取り組ませる。
- 漢字検定や各種のコンクールに積極的に参加し、自信をもてるようにする。
- やるべきことを一つ一つ取り組めるようにさせる。
- 宿題や課題にも最後までやり通すことができるように声をかけていきたい。
- 前時の確認テストなどを通して、努力することが成功につながることを実感させる。
- 自分の考えや意見を様々な表現で行う学習活動の充実を図る。
- 課題設定→課題解決と導く授業を実践する。
- できないこと、忘れ物等があったときに、責任をもって連絡や相談ができるよう指導する。
- 課題に対して真剣に向き合う姿の形成
- 難しい問題でもあきらめずに取り組む姿勢を育てる。
- わからないことはわからないと言える雰囲気づくりに努める。
- 宅習や課題等の提出物を確実に取り組ませ、提出期限を守らせることを徹底する。
- 「分かる」「できる」「使える」「生かせる」授業を展開し、授業と実生活と結び付ける。

- ・ ○日常生活における課題を発見し、実践的・体験的な活動を通して、自ら課題を解決しようとする「生きる力」を身に付けさせる。
- ・ 自分の思いをしっかりと意思表示できる生徒の育成をする。できないことは「できない」と言えるように。(できないことは恥ずかしいことではない。)出来る人がお互いカバーする。
- ・ 平素の授業で失敗を恐れずに、発表したり、表現したりする姿勢を常に評価奨励する。
- ・ 苦手なことやきついことから逃げずに取り組ませ、最後までやりぬく経験を積み重ね、自信をつけさせる。
- ・ マララ・ユスフザイさんの半生を学習し、考え方や生き方について考えさせる。
- ・ 不用意な発言など心ない言動は、その都度、すぐに対応する。  
その上で、励ましながら状況を見ながら本人に強さを求める。
- ・ 授業の中で世界の文化や情勢など興味関心を高める素材を工夫して知識を高め、自分の力で社会について学ぼうとする意欲を高める。
- ・ 課題を解決するために、自ら解決するための行動がとれるような支援をしていく。
- ・ 持久走や体力づくりなど、きついことから逃げずに継続して取組ませる。